

## 交換に就て

小 橋 じ ぐ ち

▲僕と繪ハカキを交換して居る人の中で、僕が『まじめな寫生畫を送り玉へ』と言つてやつたら、粗雑な繪ハカキに添て曰く『娛樂にやつて居るのに候らへば眞面目なる作など到底生等に及ぶべくもあらず之にて御免蒙り申候』

雜なるものよりは佳なるものにはより多き趣味の含まれあるは人の皆知る所。

樂しみにやつて居ると云ふ人の目的は佳なる繪を交換して大なる趣味を收め得れば足るだるうに「娛樂にやつて居るのだから眞面目な作は出来ない」と云ふのては、此人は粗雑な無趣味なものを見て娛樂だなんて得意がつて居るらしい。

▲繪ハカキは僅か一錢五厘の切手さへ貼れば郵便屋が持つて行つてくれるし、又アルバムと云ふはハカキを挿むべく特別に出來て居るブック等がある爲めに流行を來したたのであるう、繪を描けない人は別として繪を學ふと云ふ人はワットマン十六切大位の研究的の作畫を交換してはどうか。

繪ハカキは随分雜なものでも一寸見は好いものであるが、十六切位の大きになると少し悪い所があつても見られたものでないからイヤでも叮嚀に描く様になる。

他人の作畫を多く見るのは研究上大に有益だと先生方は皆言つて居らるゝてはないか。郵税は繪畫なら一尺三寸以内三十匁迄開き封て送れば二錢でよい。

繪ハカキ競技會中止の今日此方に全力を盡されては如何!

## スケッチブック

京 都 露 峯 生

伏見の桃山に梅谷と云ふ有名な梅林があるたま／＼休暇を得て今茲二月スケッチ旁探梅にとシヤレ込むだ。路の兩側の島や田の間に梅の木がチラチホラリ行けば行く程殖えてあちらこちらにも遂には見る所として林をせぬ所はなく其梢には皆ウエルカムと叫びそ／＼な笑を漏らすのである。此等の笑顔に恍惚と眺めながら運ぶ歩もおろそかに漸く丘の頂に登つた、一面の花は漸く中天に輝く太陽の光を反射して満目只玲瓏として氣品の高い容姿見る眼をして思はずも崇

高の念を抱かしむるのである。笑ふて居るのもある將に笑はんとせるのもある。靨郁たる蕭は恰も身の夢うつゝの中にある様な思をさせるのであつた。吾は筆を擱つた儘暫し夢心地で之に見とれた。

## 反 古 集

淺 草 森 榮 一

◎昨日自分の古いスケッチを見たなら何れも色が極端に美しく過ぎて實に不自然で有た考へれば其時分には石版摺を見て水繪とは皆此様に美しい者と思つて居たから有る◎展覽會を見に行のに家を出る時は今日こそ大家の調子の付方其他をよく見て來ようと思がいざ會場へ入ると山の様な作品が何れも取々に精巧を極め實に見事なので只あつけに取られてしまふ。其れて家へ歸て考がべると別に大いして得る事も無いで只己れに深い印象を與へた繪が残つて居るのみ、展覽會も一度や二度行たのでは駄目だ。◎近縣へ寫生に行くと思物人がよく云ふのは東京から此處迄來て書いては餘程高く賣のでしやう家へ歸て是を見て何枚も書くのでしやう。